

算数授業のめあてとポイント

令和8年7月号

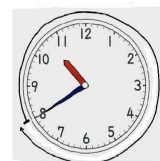
東京書籍対応

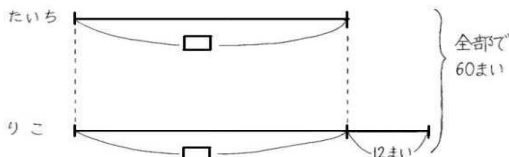
☆ 思考力・説明力を重視した「単元のめあて」を意識し、「授業のポイント」に留意することで、児童が主体的・対話的に学びを深めて、学力の向上が図られるようにしましょう。

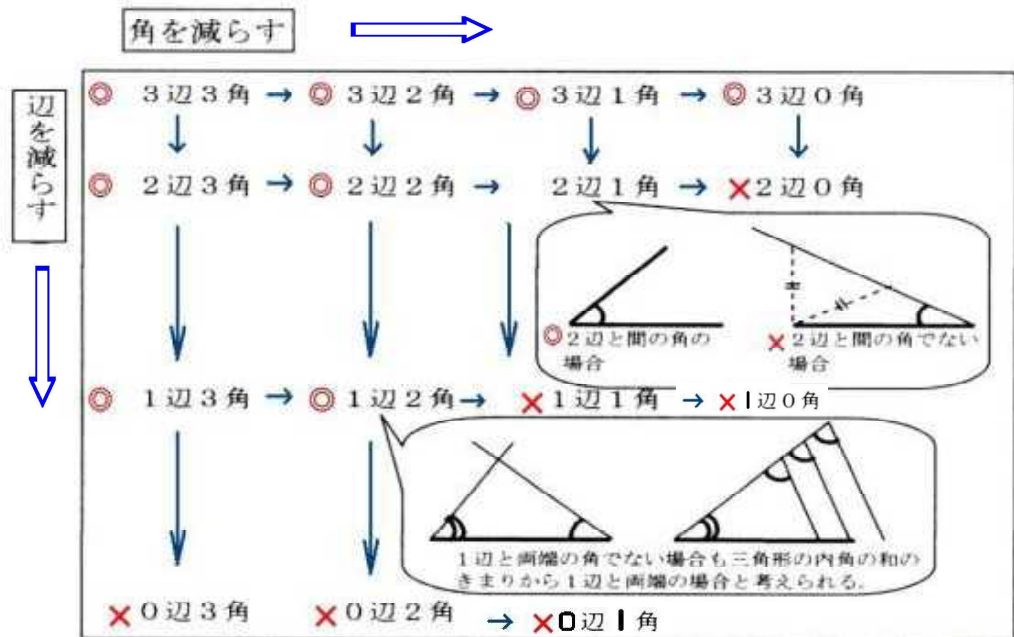
※「単元のめあて」枠内の漢字に、ルビを振っている箇所があります。ひらがなと漢字のどちらを使うかは、学習進度などを勘案して指導者で判断して下さい。

(K・・・啓林館, G・・・学校図書, T・・・東京書籍)

学年	単元	単元のめあてと授業のポイント
1年	2巻⑤ どちらがながい 同様単元 K9月⑪ G11月⑬	<p>◎単元のめあて(例)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>ながさのくらべかたをかんがえて、はなそう。</p> </div> <p>◎授業のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> 直接比較 ➡ 間接比較 ➡ 任意単位を用いた比較の順に、必要感をもって長さを比較する。 <p>《 直接比較 ➡ 間接比較に進むには 》 直接比較ができない場面を扱う。 (例) 机(本)の縦と横の長さを、テープの長さで比べる。</p> <p>《 間接比較 ➡ 任意単位に進むには 》 間接比較ができてにくい場面(間接比較で用いたテープ等を用いない)を扱う。 (例) 机(本)の縦と横の長さを、鉛筆の本数で比べる。</p>
2年	上巻⑥ 上巻⑦ 時こくと時間 同様単元 K4月③ G4月② (時刻と時間の違い) G1月⑯ (0分後の時刻)	<p>・6月号参照</p> <p>◎単元のめあて(例)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>じこくとじかんかたかんがめい 時こくと時間のもとめ方を考えて、せつ明しよう。</p> </div> <p>※「時こくと時こくの間が時間」を知った後、単元のめあて(上に掲載)がつかめるようにする。</p> <p>◎授業のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> 1年では、時計などを用いて、何時何分のように時刻を読んだり用いたりした。 2年では、時計の短針や長針の動きやそれを図式化した「時刻と時間を示す数と線の図」を基に、時刻と時間の関係や日・時・分の関係が理解できるようにする。 時刻と時刻の間の大きさが時間であるが、時刻と時間は混同しやすい。そこで、時間の指導に当たっては、何時間何分間と表して、「間」を付けて、時刻との混同を避けることが大切である。慣用的に「間」を省くのは、時刻と時間の関係が十分理解できた後に許容する程度に扱うのが望ましい。 p.76～77では、時計の動きやそれを図式化した「時刻と時間を示す数と線の図」を基に、「経過した時間」や「経過した後(する前)の時刻」を求める等の多面的な数学的活動を通して時刻と時間の違いや1時間=60分間を理解して、説明できるようにする。 <p>〈問題(例)〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 10時40分から11時20分までには、何分間ありますか。 10時40分から1時間後は、何時何分ですか。 10時40分の30分前は、何時何分ですか。



		<ul style="list-style-type: none"> 生活の中で、朝の7時と夜の7時のように、7時が1日に2回あることに気付いて、「午前」「午後」「1日 = 24時間」を理解し、説明できるようにする。
3年	上巻⑥	<ul style="list-style-type: none"> 6月号参照
	上巻⑦	<ul style="list-style-type: none"> ◎単元のめあて(例)
	暗算 同様単元 K7月⑦ G5月④	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>2けたの数の たし算ひき算のしかたを ^{あん}暗算で考えて、せつ明しよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ◎授業のポイント 計算の結果について、見通しをもつことが大切である。たす数ひく数について、繰り上がり繰り下がりのない場合と ある場合の範囲を明らかにしてから 計算するようになる。
4年	上巻⑤	<ul style="list-style-type: none"> 6月号参照
	考える力を のばそう	<ul style="list-style-type: none"> ◎単元のめあて(例)
	同様単元 K11月	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>「もとの数を何倍かして それにもう1つの数をたす」ときの ^{もと}もとの数の求め方を考えて、 ^{せつ}説明しよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 共通部分を□とすると、$\square \times a + b = c$ の問題となる。□は、「たいち」と「りこ」の共通部分の1つ分を表す。 <div style="text-align: right;">  </div> <ul style="list-style-type: none"> ◎授業のポイント 児童が自ら図をかいて 数量の関係をつかみ、「もとの数」を求める問題であることに気付くようにする。 数量の関係を図や線を用いて表し、それをもとに立式し、説明できるようにする。 新学習指導要領で重視される説明力を高める単元である。
そろばん	<ul style="list-style-type: none"> ◎単元のめあて(例) 	
同様単元 K10月 G11月⑬	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>小数や整数の たし算ひき算を そろばんで計算するしかたを ^{せつ}考えて、説明しよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ◎授業のポイント 小数も大きな整数も、単位となる数(0.1, 1億など)を1つ分として、今までの整数と同じように $9 + 2 \rightarrow 9 + \textcircled{10} - 8$ などの 数の多面的な見方や感覚を大切にしながら、そろばんで計算できるようにする。 	
5年	上巻⑥	<ul style="list-style-type: none"> ◎単元のめあて(例)
	合同な 図形	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>形も大きさも同じ図形の性質を見つけ、かき方を考えて、説明しよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ◎授業のポイント 形も大きさも同じ図形を重ねてみる中で、それらの図形がぴったり重なり合うことに気付くことが大切である。さらに、ぴったり重ね合わせることでできる図形(合同な図形)では、「対応する辺は同じ長さ」「対応する角は同じ大きさ」になることに気付くようにする。 p.77～80で、合同な三角形になる条件を考えることは、直感を基にして論理的思考力を育てるのに適している。 ➡ 暗記で処理しないように。
	同様単元 K6月⑦ G4月②	



◎ は、常に合同な図形になる。
 × は、合同な図形にならない場合がある。

6 年

⑤比

◎単元のめあて(例)

2つの数を使って割合を表す表し方を知り、その利用のしかたや良さを考えて、説明しよう。

同様単元

K10月⑩

G10月⑪

◎授業のポイント

- ・実生活との関連を考慮して、導入で「比を利用すると、役に立つなあ。」という実感がもてるような数学的活動を工夫する。

(例) こい飲料水と水は、何：何でうすめる場合に おいしいか調べよう。

「10：40」と「20：80」は、味が一緒ということにも 気づきやすい。

- ・比を用いる良さ

{	<ul style="list-style-type: none"> ・整数の組み合わせのままで考えることができる。 ・いつでも再現が可能(同じ味ができる)。
---	---

(使う)

<お知らせと お願い>

「算数授業のめあてとポイント」や「算数教育 情報コーナー」等を ご覧いただき、日々の実践に役立てて下さい。

なお、これらについてのご意見ご質問および「算数教育ネットワーク岡山」の活動への参加希望は、

seiden_atmark_po.harenet.ne.jp まで Mail でお知らせ下さい。

(スパム対策です。お手数ですが _atmark_ を, @に直して下さい。)